

小平市議会定例会一般質問通告書

再質問の方式

- ① 一括質問一括答弁方式
② 一問一答方式

質問件名 多胎育児経験者によるサポート事業でさらなる育児支援の充実を

質問要旨 (初めに質問全体の趣旨、次に具体的な質問内容を項目別に記入してください)

2019年12月定例会において多胎育児支援に関する一般質問を行いました。多胎育児の過酷さがマスコミでも多く取り上げられるようになり、国や東京都においても、多胎育児支援に対して積極的な施策を打ち出しています。小平市でも、3歳未満の多胎育児家庭への健診等への移動支援が予算として組まれることとなり、少しずつ理解や支援が広がってきていると感じています。今年に入ってから世界が新型コロナウイルスの感染拡大という非常に大きな難題に直面し、国はもちろん、東京都や各自治体もその対応に追われる日々となってしまいました。ただでさえ孤独に陥りやすい多胎児の子育てが、里帰り出産や高齢の親族の援助を受けることが難しくなったうえ、これまでのように人と気軽に会って話すことが憚られ、子どもを公園や室内遊具施設などで遊ばせにくい環境のなかで、さらに困難な状況に陥っています。是非、多胎育児支援拡充の機運を止めることなく市としてもさらに進めていただきたく、以下質問いたします。

1. 児童館及び子ども広場において多胎児の利用はどの程度あるのか、実態を把握した数字があればお示しください。
2. 現在市として多胎育児者向けに行っている事業には、どんなものがありますか。
3. 多胎家庭における虐待リスクは、過度な育児負担を主な原因として単胎家庭の2.5～4倍ともいわれています。こうした状況を鑑み、「とうきょうママパパ応援事業」において今年度から東京都で予算化されている下記事業の実施について、
 - ① 多胎育児経験者(ピアサポーター)との交流会や相談支援事業を実施する多胎ピアサポート事業について、例えば市内多胎サークルとの協働事業として取り組むことにより実施は可能ではないかと思いますが、市の検討状況は。
 - ② 多胎児家庭サポーター事業について、市において実施するにあたっての最も大きな障壁となるものは何だと思えますか。
4. 多くの多胎育児中の方からの声として、これだけ大変な状況にあって、やっと仕事を見つけたと思ったのに、肝心の保育園に入れなかった、保育園の加点評価が低すぎるのではないかという声が非常に多く届いていますが、市の見解は。
5. 妊娠期の妊婦健康診査について、多胎妊娠では単胎妊娠に比べてリスクが高く、妊娠中十分な経過観察・体調管理が必要となるため、受診回数が増える傾向があります。経済的な負担を抑えるため、高崎市のように現在の妊婦健康診査が受けられる14回に追加して助成回数を増やすなどの対策が求められます。市としての見解は。

上記のとおり、小平市議会会議規則第57条第2項により通告します。

令和2年8月31日 小平市議会議員 殿 小平市議会議員 氏名 山浦 まゆみ

受付番号【 】

27	26	25	24

-(/)